

## 佳作

### 「検診と家族」

匿名希望

もう14年前のことになりますが、私は父をガンで亡くしました。61歳という若さでした。愛知県名古屋市の職員として勤めあげ、60歳で定年退職を迎えましたが、体は元気いっぱいだったこともあり、同じ職場で雇用延長され、仕事は続けておりました。私の子供2人は、当時上が4歳の男の子、下が0歳の女の子でした。私は東京に住んでおりましたので、正月やお盆の帰省の時をとっても楽しみにしてくれていたのを思い出します。私の妹はすでに愛知県内に嫁に出ていたのと、私の母は早くに事故で亡くなっていましたので、父がガンだと分かった当時、父は弟と2人で暮らしていました。今まで子供3人を育て、額に汗して仕事をしながら家事もやっていたから、ようやくこれから少しずつ自分の時間が持て、孫たちと遊んだりしながら、ゆっくり自由にしていける歳になった矢先でした。

定期健診は職場で定期的に受けていたと思います。健診の結果はいつも何の問題もなく、体を動かすのも好きで、食生活も質素でしたので私たち兄弟は、父が病気になるような要素は全く無いと信じておりました。あるとき、背中に痛むところがある、ということで町医者に行ったところ、大きい病院を紹介されて精密検査を受けることになり、その時初めてガンが見つかったのです。見つかったのは胆のうガンでした。膵液と胆汁が混ざって合流する部分にガンはありました。主治医の説明で、胃ガンなら助かる大きさだったと知らされました。胆のうは薄く小さく、膵臓や十二指腸などの臓器とひっついていてのためにガンが発生するとそれら臓器に浸潤しやすく、その上見つ

けにくいのだそうです。

全くの手遅れでした。突然のことであり、まさか、という思いだけでした。本当に元気だったし、全くそのような気配は感じられなかったのです。しかし、ガンであると判ってから寝たきりになるまで3ヶ月、意識が無くなるまでさらに1ヶ月、それから他界するまで、たったの1ヶ月という短さでした。父は強い人でした。辛い治療にも愚痴1つこぼさず、どんな状況にも看護師を気遣い、音を上げることはしませんでした。そのことを後で看護師の方がすごい方だと言っていたのを思い出します。しかし我々親族は、その分どうすることもできない無力感にさいなまれ、苦しくて仕方ありませんでした。

どうしてもっと早く・・・。

私には未だに整理がつかないことがあります。この父の死は、何か防ぐ方法があったのでしょうか。何かをしていれば、防ぐことができたのでしょうか。あるいは何をしても見つけるのは困難で、あきらめるべきなのでしょう。実は前者の方が親族としては辛いのです。後者の場合はあきらめるしかない整理が付きます。でもこれは亡くしてしまった後の逃げなんでしょう。亡くしてしまったらその様に整理を付けるしかなくなってしまうんです。「あきらめるしかなかったんだ」と。ですから、最大限知りましょう、防ぐことができることの全てを。そして辛い思いをしないで済むように最善を尽くしましょう。

人間ドックはそれを教えてくれる唯一の方法のはずです。私の息子は今18歳、娘は14歳になりました。妻とこの子供たちにも同じ思いをさせないことが、私の務めなのでしょう。人間ドックを受ける時には、必ず父の話を伝え、油断の恐ろしさ、健診の大切さを繋いでいけたらと考えています。